

自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2007.11.11 No.6

北海道ボランティア・レンジャー協会

立冬・冬眠

天気予報で「西高東低の気圧配置」との解説が多くなってきました。これは、日本の西方にあたる大陸に高気圧があり、東の海上に低気圧のある型です。この型になると日本海の影響をうける札幌では北西の季節風が強くなり雪が降り始めます。札幌から望む遠くの山々が白くなり始めました。冬の到来にまつわる言葉を調べてみました。

〈立冬〉

今年の「立冬」は11月8日でした。この日から立春の前日までが冬とされていますが、気温も下がり平地にも雪が降り始めます。立冬は二十四節気の一つですが、太陽暦の日付と季節を一致させるために考案されたもので、明治5年まで使われていた大陰太陽暦の一つ「天保暦」もこれを使用していました。

現在「旧暦」と呼んでいる暦もこの天保暦の焼き直しとされていますが、旧暦の日付を決定するには二十四節気が必要なのだそうです。この二十四節気は今では季節感を表す言葉として用いられているのはご存じの通りです。

〈冬眠〉

冬眠と言えばヒグマを連想します。野幌森林公園にはヒグマは生息していませんが、冬眠する動物はいます。シマリスやコウモリ、カエルやエゾサンショウウオの両生類、ヘビなどの爬虫類などがそれです。冬眠とは冬の寒い季節の間、動物がその生活活動をほとんど停止し無感覚に近い状態もしくは昏睡状態で過ごす現象を一般的に冬眠と呼んでいます。

この冬眠の仕方は種によって異なるため3つのタイプに分けられています。

・カエル型冬眠

爬虫類や両生類の変温動物の冬眠は、冬になり気温が低下すると体温も低下して、ついにはその動物の活動可能な体温以下になるため活動できなくなるために起こります。

・コウモリ型冬眠

哺乳類の異体温動物に見られるもので、めざめて活動中の体温は恒温性であるが、冬眠中は冷血、変温性になります。

・クマ型冬眠

北海道のヒグマ、本州のツキノワグマなどの冬眠で、地中のほら穴や大木のほら穴にこもり、うつらうつら眠り続け、カエル型やコウモリ型のように体温は低下しません。

— 観察会予定 —

◆西岡水源地自然観察会 11月23日(金) 10:00~12:30

管理事務所前集合 10:00

例年、事務所横のイチイの木にエゾリスがきています。葉が落ち野鳥の観察に最適です。

ロゼット

気温が下がり冬が近付くと、野草もいろいろ越冬の工夫をします。その一つにロゼットという葉の状態になる種があります。

ロゼットとは、元来バラの花から由来する言葉で、八重咲きのバラの花びらの様な配列を表し、放射状やらせん状に配列されたものをロゼットとかロゼット状と表します。植物用語としては、地上茎が無いか極端に短く、葉が放射状に地中から直接でていること、あるいは、それに近い状態を言います。そして、このような葉を根出葉といますが、ロゼットというのは根出葉が円盤状に並んだ植物を表す言葉で、個々の葉をロゼット葉ともいいます。

野草の中には冬季間にのみロゼットの姿を取るものもあります。

タンポポ、メマツヨイグサ、ヒメジオン、アザミ類などですが、冬を越して春に成長する越年草にロゼット葉をつける例が多々あります。

晩秋から冬にかけて、寒さに耐えられるよう地表に張り付き、しかも光を受けられるように葉を広げ、つめたい風があたりぬようにしたり、根のまわりの乾燥を防ぐ役目などをロゼット葉が担っているのです。



ヒメジオンのロゼット

冬の野鳥

森の木の葉が落ち見通しがよくなりました。野鳥の観察には好都合ですし、餌を探す姿を間近に見ることもできます。しかし、野鳥観察にはそれなりのマナーが必要です。野鳥を驚かせない距離を取るこや、私たちの無神経な行動は慎むべきでしょう。冬に向かうこの時期、次の野鳥を観察してみましょう。

◆カラの仲間

シジュウカラ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シマエナガ、ゴジュウカラなどの混群に出会うと数種の野鳥がいっぺんに観察できます。

◆キツツキの仲間

アカゲラ、オオアカゲラ、コゲラ、ヤマゲラの姿を探してみましょう。運がよければクマゲラに出会えるでしょう。これらのキツツキの仲間に出会えなくても、樹木に残された食痕をみてみましょう。

◆フクロウ

これからの時期、公園内の大木の樹穴で観察できますが、脅かさずに観察しましょう。

◆マヒワ

冬鳥としてシベリア方面から飛来します。カツラの種子を盛んに採餌している姿を見ることができるようでしょう。

◆ウソ

雄の赤い頬が特徴です。口笛を吹くの意味の「うそぶく」が語源でフィッフィッという鳴き声が口笛のようです。

◆シメ

太い嘴とずんぐりとした体型が特徴です。シは地鳴のシッで、メは小鳥との語源説があります。